

北の大地とともに

CSRLレポート 2014



特集

「北海道の元気」を応援するキーワード **A** to **Z**

「さわやかさとうるおい」を、 これからも作り続けます。

C O N T E N T S

23	マネジメントシステム	31	工場見学・プロフィール
21	環境会計	29	コカ・コーラシステム概要
19	環境負荷低減	27	企業の社会的責任
17	地域コミュニケーション	25	品質管理
16	We are ザ・チーム北海道		
13	地域に子どもたちの笑顔を		
11	水資源、そして森を大切に		
9	地域の美化と防犯を支えて		
7	地域の活性化と防災に向けて		
5	協創の協働体へ、新たなステップ		

A to Z

「北海道の元気」を応援するキーワード

4 「特集」

「巻頭企画」 WE ARE THE HOKKAIDO チーム北海道であることを願って 北海道179市町村、 未来へつながる

1 「巻頭企画」

ごあいさつ

私たちは、北海道の緑豊かな大地に育まれた良質な水と原材料を使い、高い品質管理の下で清涼飲料水を製造・販売する事業を展開し、地元の皆さまに支えていただくことで、昨年50年の節目を迎えることができました。

当社は、この北海道の地が単に市場ではなく、北海道に住む全ての人々にとって何にも代えがたい大切な地で、さらに「道産子企業である私たち自身が北海道」である誇りをもって、社員一人ひとりがこれまで以上にこの「北の大地」を大切に活動していきたいと考えます。

このレポートをお読みいただいて、当社グループの考え方や活動に対し、より多くの方々のご理解とご協力をいただければ幸いです。

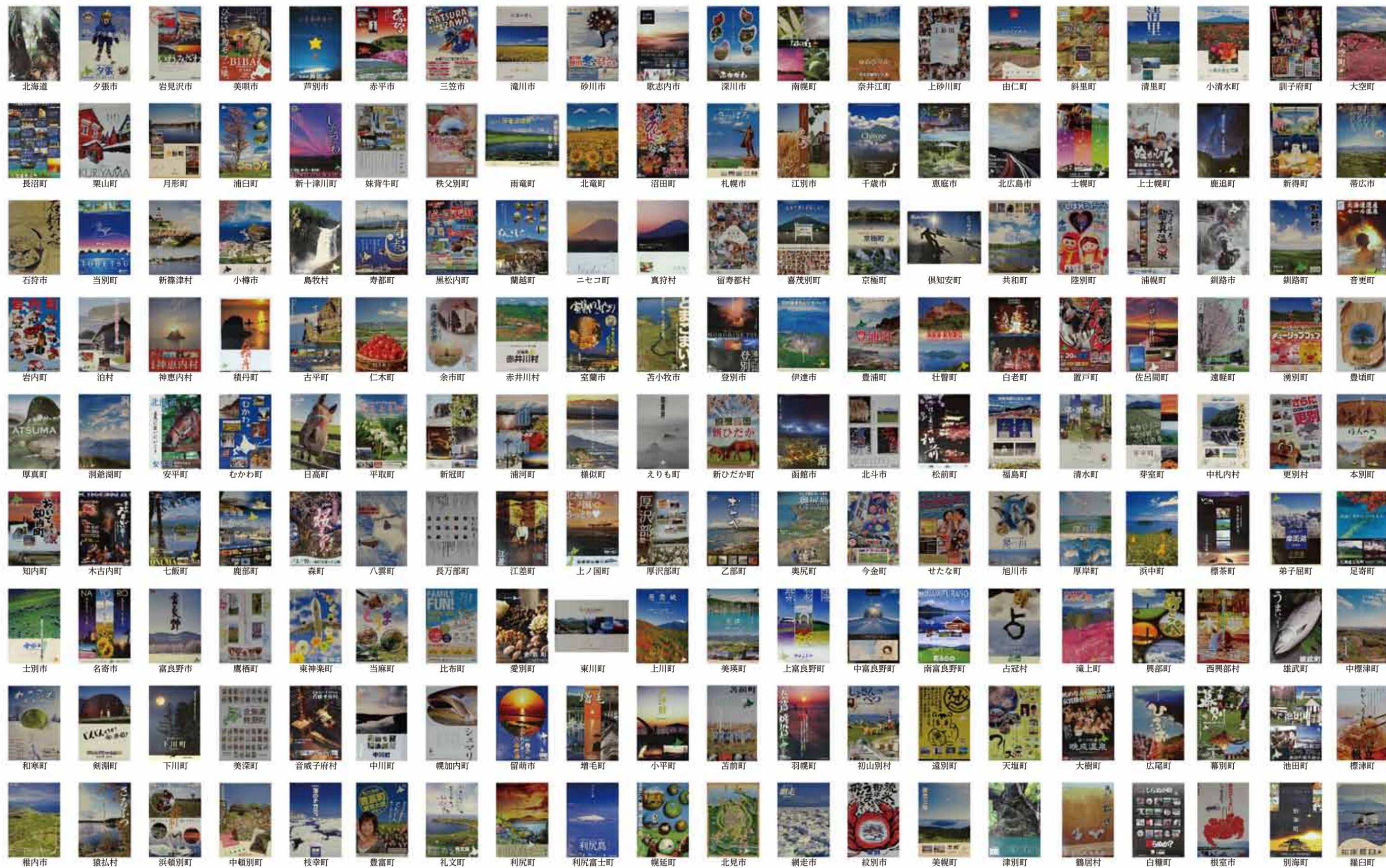


代表取締役会長
矢吹 健次
Yabuki Taketsugu

代表取締役社長
佐々木 康行
Sasaki Yasuyuki

チーム北海道であることを願って 北海道179市町村、未来へつながる

私たちは北海道が「環境にやさしい、住みやすく、賑わいのあるまち」であるために、分野を超え地域を越えた多くの仲間たちと、様々な場面で地域のお役に立てるよう努めていきます。2014年1月18日、北海道との包括連携協定締結が実現しました。「北海道は、こんなにも素晴らしい!」、179市町村の「熱い想い」とその力にご期待ください。





特集

「北海道の元気」を
応援するキーワード

A to Z

北海道生まれの道産子企業として、
地域のみなさまとつながりながら、
北海道の元気を応援する。
私たちの取り組みを、キーワードで
ご紹介します。

協創の協働体へ、新たなステップ



【Action / 行動】
力を合わせて、心をひとつに、
さあ、新しい北海道を始めよう！

当社は、住みよい地域社会と躍進する企業の調和を目指して、北海道の新しいまちづくり事業に積極的に参加してきました。それは2006年の「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」、2007年の「子どもの安全を見守る運動」、そして2009年の「さっぽろまちづくりパートナー協定」の締結などに結実してきました。そして2014年1月、当社は北海道の活性化に向け、相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むために、「北海道との包括連携協定」を締結しました。



北海道との包括連携協定締結式

しました。今後は、これまで北海道と協働で行ってきた安全・安心なまち

づくりや、環境保全への取り組みなどの地域密着活動をさらに進化させ、真の道産子企業としての力強い歩みを進めていきたいと考えます。

2010年、帯広市と「協働のまちづくりに関する基本協定」を締結しました。帯広市では、国の認定による「低炭素社会の実現を目指す環境モデル都市」として、家庭や店舗から回収した食用油で製造されるバイオディーゼル燃料の利用を促進しており、2011年より当社のトレーラーやルートトラックでも一部導入したほか、ソーラーパネル搭載自動販売機を集中的に展開しています。

北海道内の5都市札幌市・旭川市・函館市・帯広市・釧路市との間で、まちづくりに関する協定を締結し、さまざまなかたちで地域を応援しています。

2009年、札幌市および清田区との間で「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結し、さっぽろ雪まつりなどを応援しています。

旭川市とは2008年に「魅力的なまちづくりに関する基本協定」を締結し、旭山動物園での環境教育プログラムなどを展開しています。

2009年、函館市と「協働・共創のまちづくりに関する協定」を締結し、子どもたちの職業体験イベントであるキッズタウンを開催するほか、電光掲示板付き自動販売機を活用した

2010年、釧路市と「釧路市民とともに進めるまちづくりに関する協定」を締結したことから、「市民活動センターわっと」と協働し、行政情報や地域情報などを電光掲示板付き自動販売機

から配信しているほか、「水都・釧路」のシンボルでもあるスケート競技も応援しています。



第65回さっぽろ雪まつりへの参加

北海道全域の防災パートナーとして。

当社は、道内全域をカバーする物流網を有することから、2006年12月より地域の飲料水備蓄基地の代行を柱として、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結し、防災のパートナーとして北海道のライフラインの一端を担っています。

さらにこの協定に基づき、電光掲示板付き災害対応型自動販売機を活用した市町村との協働の取り組みを展開し、2012年3月にはすべての市町村との間に安全・安心のネットワークが広がりました。この自動販売機は、



北海道警察との飲料物資輸送訓練

パソコンからのインターネットを活用した遠隔操作により、市町村からの公共情報等の地域情報を配信できるほか、災害発生時などの緊急時には自治体の判断で飲料を無料提供することが可能です。

また、2013年4月、北海道警察本部との間で締結した協定は、被災地での警察活動の際に、必要となる飲料を迅速に提供することを目的としたものです。なお、この協定締結を受け、同年、当社は初めて北海道警察による防災訓練に参加しました。

緊急時には、飲料を無料提供。

2013年、北海道内で発生した停電や雪害などの災害時には、北海道との防災協定に基づき、避難所へ

飲料を寄贈しました。また、各自治体の判断で災害対応型自動販売機内の飲料を無料で提供しています。



札幌市豊平区防災訓練に参加

災害時の製品提供、無料提供を実施した自動販売機

年月	販売課	自治体	理由	無償提供(ケース)	無料提供(台)
2013.2	帯広	浦幌町	地震	—	1
2013.2	帯広	本別町	地震	—	1
2013.2	帯広	豊頃町	地震	—	1
2013.3	北見	湧別町	暴風雪	—	4
2013.3	北見	常呂町	暴風雪	—	1
2013.8	八雲	厚沢部町	大雨	50	—
2013.9	釧路	釧路町	台風	—	1
2013.9	帯広	広尾町	台風	—	1
2014.2	網走	斜里町	暴風雪	—	1
2014.2	中標津	標茶町	暴風雪	—	1

チーム北海道

地域社会に支えられている企業は、地域の活性化なくして持続することはできません。しかし、行政やNPO、特定の企業だけではできないことも限られることから、北海道を大切に思うすべての企業が積極的に地域活動に取り組む、新たな異分野広域型連携である「チーム北海道」が誕生しました。現在、雪かきボランティアをはじめ、様々な活動に取り組んでいます。



B



【Band / 隊・きずな】
スクラム組んで、
北国の冬を乗り切る。

北海道の「天災」ともいえる雪害に対する支援活動として、2009年より当社従業員と札幌国際大学の学生たちが連携して、本社近隣の高齢者宅や道路の消火栓、ゴミステーションなどの「除雪ボランティア」を実施しています。また、2011年よりさまざまな道内企業と連携し、大雪に悩む高齢者宅の「雪かきボランティア」をスタートしました。

C

【Comfortable / リラカメス】
安心して暮らせる、
ぬくもりの街へ。



2013年8月、当社と札幌市北区は、区民の防災意識向上を目的とする「北区安心して暮らせるぬくもりの街連携協定」を締結しました。これは、2011年に発生した東日本大震災をきっかけに、高まりを見せた区民の防災意識を背景に備蓄の必要性など、防災に関する安全・安心づくりを応援する活動を継続して実施しています。なお、この協定は札幌市との「さっぽろまちづくりパートナー協定」に基づくもので、区との協定は2009年の「清田区まちづくりパートナー協定」に続き2件目となります。

E

【Eminence / 目立つ場所】
津波に対する
防災意識の向上を目指そう。

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、釧路市では津波に対する防災意識が高まりました。津波は、海岸地域のどこまで到達するかわかりません。そこで、釧路市や連合町内会と地域防災についてのタウンミーティングを機に、当社の自動販売機に「海拔表示」の取り付けをスタートしました。現在、この海拔表示の取り組みは全道へ水平展開し、道内約4,000台以上の当社自動販売機での展開を進めています。



F

【Forward / 先く・将来に向かって】
一歩進んだ助成制度「リボンの願い」。

当社は2010年より、たくさん自動販売機を設置しているお客さまから賛同をいただき、乳がんから女性の命を守る取り組みを（公財）北海道対がん協会とともに支援してきました。なかでも、市民活動団体を応援する助成制度「リボンの願い」は、地域モデルとして全国的にも先んじた取り組みとなっており、今後は連携企業との協働を通して活動の幅を広げていきます。



(公財)北海道対がん協会
事務局 南 聡一 局長

全国のピンクリボン活動支援の取り組みのなかで、「リボンの願い」のような助成制度は他地域には見られない非常に価値の高いものです。北海道対がん協会としても、この取り組みを通して「支援をする・受ける」たくさん企業や団体の心が一つに結ばれ、大きな輪に広がっていくように北海道コーラ社とともに努力をしていきます。

D

【Defense / 防衛】
地域防災を通じて
「コミュニティ」を拡充。

大学の地域連携促進によって、地域志向の人材育成を目指す札幌市立大学と、当社と意思を同じにする複数の企業が、より生活に身近な防災について考え、対応することで地域力を高める取り組みを協働で始めました。産・学・官・民連携による「学び舎」事業で防災に取り組むチームを結成し、2014年春には第一歩となるキックオフミーティングが開催されました。



北海道総務部
危機対策局
危機対策課
防災グループ
甲谷 恵 氏

いざという時にすぐ逃げられるよう玄関に靴をそろえていますか？ 近所の人たちと挨拶して顔見知りになつていませんか？ 地震で物が倒れてこないよう整理整頓はしていますか？ 「防災」とは、難しいことでも堅苦しいことでも、また特別な人たちだけがやることでもありません。物干し竿と毛布でつくる担架リレーやバケツリレーなどを盛り込んだ運動会、町内の街歩き、避難所で宿泊体験するなど、いろいろな取り組みが全道各地で始まっています。さらに、一人暮らしの女性だけの「そなえカフェ」、子育てママの勉強会、少し賞味期限の長いお気に入りの食品を定期的に食しながらの家族会議など、いま私たちが「難しくなく」始めること、それが将来の大切な子どもたちの「命」を守ることにつながっていきます。

G

【Ground / 大地】
「よきモノづくり」が目指す
「地産地消」。

2009年より当社札幌工場（札幌市清田区）で採水された、地元北海道の美味しい天然水「い・ろ・は・す」を販売しています（※）。この製品には、飲み終えたあとに軽い力でコンパクトにしぼる（つぶす）ことができる軽量のペットボトルを採用しており、美味しく楽しくエコに取り組みすると好評です。

また、札幌工場では製品の原材料として、北海道産のてん菜（砂糖）やミルクを100%使用し、地産地消の活動を積極的に応援しています。さらに、北海道限定のさっぽろ雪まつり缶やYOSA K O Iソーラン缶などを通して、地域のイベント活動も支援しています。

(※)北海道地域販売分





水資源、そして森を大切に



当社は、北の未来を担う子どもたちに水資源の大切さについて楽しく学んでもらうため、全道の子どもたちを対象に環境出張授業「もつと知ろう！水のこと。」を実施しています。

この授業では国内外の水の飲み比べをはじめ、世界の水資源に関するクイズや地元の水についての豆知識などを通じて、地域から世界の水について考える機会を提供しています。



【Openly / 公開の】
自然に「感動する心」を育てたい。



【Relation / 連携】
いまある「自然の素顔」を守るために。



【Scenery / 景観】
木を育てながらつくる、北の豊かな未来。

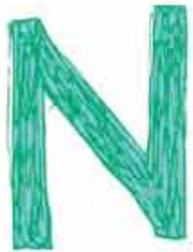
北海道の豊かな水資源と美しい自然環境を次世代へ引き継いでいくことを目的として、「北海道e-水プロジェクト」を2010年より北海道と（公財）北海道環境財団との連携のもと推進しています。

これは「ジョージアサントスプレミアム北海道限定デザイン」の売上の一部を、広く公募した北海道の水辺を守る団体の活動に役立ててもらい取り組みです。この取り組みは2014年で5年目となり、選出団体間での連携も広がりつつあります。

各地域の団体が行っている水辺の観察会や清掃などのさまざまな活動には、当社社員も積極的に参加して、自然を愛する人と地域のきずなを深めています。

北海道の美しい景観を守り育てる、シーニックバイウェイ北海道が中心となり、2013年6月、旭川十勝間で取り組んでいる「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」の植樹祭が、狩勝峠東側五合目で開催されました。

このセレモニーには北海道開発局をはじめ、帯広・旭川等近隣の関係者などさまざまな団体が参加し、当社も連携企業として出席しました。



【Nature / 自然】

北の緑豊かな森づくりのために。

当社札幌工場で製品の製造に使用している水は、札幌市清田区白旗山を水源として長い時間をかけて育まれた地下水です。これからも美しい水源を守り育てていくため、2011年に札幌市と「環境事業に関する協定」を締結しました。

さらに「白旗山の森づくり」として、「森に学ぼう」プロジェクトわくわく体験ランド北海道in白旗山がスタートしました。これは、地域の方々との植樹活動や子どもたちとの自然散策などの取り組みを開始し、50年にわたって継続して森づくりに取り組んでいくものです。



【Potential / 可能性のある】
街のお店、水の大切さの授業を開催。

2013年8月、当社は、旭川市の大手流通チェーンの店内スペースに一日だけの教室を作り上げ、子どもたちが水の大切さを学びながらリサイクルの体験ができる「楽しく学べるエコ教室」を開催しました。流通店舗内において、このような子どもたちの可能性を広げるイベントの実施は初の取り組みです。



【Quest / 探究】
自然との一体感を感じる「山のがっこう」をオープン。

当社の創立50周年記念事業の一環として、2012年11月清田区白旗山において、産・学・官・民の連携「山のがっこう」みずからまなぶ未来へつなぐ「サイエンスフィールド白旗山をプレオープン」しました。



北海道大学大学院環境科学院 根岸准教授による、フィールドでの調査



自分で作った紙飛行機を飛ばすふくしまキッズたち

T
【Town / 町】
「思い出が生まれる」
まちづくりが応援。

2013年12月、コカ・コーラウインターキャンペーンの一環である「コカ・コーラクリスマストラック」が、広尾町と函館市を訪問しました。

広尾町は、サンタの故郷ノルウェー・オスロ市が認められた国外初、日本で唯一のサンタランドです。広尾サンタランドは、本家であるノルウェーのイメージを尊重しながらも、長い時間をかけて「広尾町らしい魅力・夢・ロマンのある町」、「幼児から高齢者まで幅広い層が参加し、愛や優しさ、誇りや思い出が育つ町」を実現し、育てていくことを目指しており、2014年11月には30周年を迎えます。

サンタの衣装を通して縁の深いコカ・コーラのサンタトラックが、南十勝のサンタランド、広尾町を初めて訪れ、「サンタの家」をはじめ地域の幼稚園・小学校・老人ホームなどに立ち寄り、まちのにぎわいと盛り上がりを取りこまぬよう応援してきました。

昨年のクリスマスイベントには、札幌の市民活動のみなさんと難病で闘病中の子どもたちにおもちゃを届けるお手伝いができました。さらに、コカ・コーラ社員のみなさんと札幌の街角でコカ・コーラ社からのプレゼントと、広尾町の子どものたちからのお届けするクリスマスカードを市民の方たちにお届けすることができました。地方の小さな町が企業と連携するとはかか生まれるようでワクワクします。



広尾町 村瀬 優 町長

U
【Unique / 独特な】
ユニークな手法の
クリスマスプレゼント。

2013年12月、サンタクロースの衣装を着て街なかを走り(歩き)、イベント参加費の一部で病気と戦う子どもたちにクリスマスプレゼントを贈るイベント「北海道グレートサンタラン」が、札幌市民有志の熱意で大通公園を中心に実現し、当社も少しだけ応援することができました。

このイベントは、アメリカ・イギリス・オーストラリアなどでは、毎年数千人規模で開催されるもので、日本では2009年に大阪で初めて開催され、北海道では今回が初めてとなります。参加費3,000円はサンタの衣装代と若干の運営費、そして子どもたちへのプレゼントとなります。参加者は当初の予定を大幅に上回り、初開催にもかかわらず180人を超えました。

イベント終了後、札幌市立病院・札幌医科大学・北大病院の小児病棟でがんばっている子どもたちに、サンタがクリスマスプレゼントを届けに行きました。当社は、これからは滝川市郊外での難病の子どものための宿泊体験や外遊びを応援する「そらぶちキッズキャンプ」とともに、このサンタランを応援していきます。



V
【Volunteer / 奉仕】
子どもたちの想い出づくりを企業が応援。

2012年に初開催した「ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ」を、2013年にも栗山町・栗山町教育委員会および賛同企業各社と協働し、栗山町の雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで開催しました。これは2011年の東日本大震災の影響で、屋外での活動に制限を受けている福島の子

どもたちを対象に、夏休みの思い出づくりを応援するものです。北海道の自然のなかでさまざまな体験活動をするほか、JALの現役パイロットが直接指導する紙飛行機教室など、子どもたちに「遊び」と「学び」の両方で楽しい笑顔を提供しました。

W
【Work / 仕事】
子どもたちの「一所懸命」を応援したい。

2010年の函館市から、旭川市・帯広市・釧路市・室蘭市・苫小牧市など、道内の各都市で小学生が仮想のまちでさまざまな職業を体験しながら、社会の仕組みを楽しく学ぶ「キッズタウン」を共催しています。



このイベントは、各市および教育委員会、当社をはじめ地域の主要な企業や団体など計130社の協力を得て共催されるものであり、官と民が一体となり、ボランティアとして子どもたちに直接関わることで、まちづくりを推進し、街全体で子どもを育てていくことを目指しています。会場では、子どもたちがお店の人やお客さまに扮し、それぞれの職業や消費などの擬似的な社会体験を行うことで、社会の仕組みを楽しく学んでいます。2013年は、室蘭市を除く5会場で行われ、2,305名の子どもたちが、さまざまな職業に一所懸命に取り組まれました。

各都市でのキッズタウン開催

開催都市	開始年	2012年		2013年	
		参加児童数	出展団体数	参加児童数	出展団体数
函館市	2010	500	25	553	24
旭川市	2011	552	25	550	28
帯広市	2012	370	23	450	21
釧路市	2012	350	18	300	26
室蘭市	2012	446	21	—	—
苫小牧市	2013	—	—	452	31
合計		2,218	112	2,305	130

北海道を元気にする仲間たち
We are ザ・チーム北海道

キッズタウン

道内各地で開催しているキッズタウン(14P参照)は、各地の地元企業や学校関係者の協力により支えられています。



協力団体

釧路市 社団法人 釧路青年会議所・釧路信用金庫・日本郵便(株) 釧路中央郵便局・釧路ガス(株)・(株)トップオブ釧路 山花温泉リフレ・鶴雅グループ pan de pan・そば太郎 星が浦店・釧路市消防本部・ALSOK 北海道総合警備保障(株) 釧路支社・(株)北日本広告社・(株)JTB北海道 釧路支店・丸善木材(株)・(有)SHINE BLESS・釧路菓子商組合・釧路方面 釧路警察署・(一社) 釧路薬剤師会・(株)リアブル・小鶴商会・(株)釧路厚生社・太平洋石炭販売輸送(株) ヨーハン給食センター・釧路北陽高等学校・釧路労災看護専門学校・釧路江南高等学校・釧路公立大学・釧路工業高等専門学校・釧路専門学校・北海道教育大学釧路校 **旭川市** 旭川ガス(株)・旭川市消防本部・旭川薬剤師会・雄北(株) ササキ工業・トータルエステティックサロン Bochoumer・(株)三建設事務所・花本建設(株)・(株)カナモト・東芝ホクト電子(株)・旭川理容美容専門学校・北海道銀行・(株)北日本広告社・ハローワーク旭川・(株)北海道録画センター・(株)日本旅行北海道 旭川支店・名鉄観光サービス(株)・(有)ヨシダ・パークフーズ(株) 創味食房 釜蔵・ペローズフィールドビーチ・旭川方面旭川東警察署・旭川市保健所・(株)壺屋総本店・旭川駅立売(株)・(株)コナズコーポレーション・まごころ館・旭川教育大学・旭川大学短期大学・拓殖大学北海道短期大学 **函館市** 北島製パン(株)・(一社) 函館薬剤師会・函館市朝市協同組合連合会・函館税務署・函館市財務部・(株)函館新聞社・(株)北海道銀行・キューツ(株)・函館山ロープウェイ(株) F M いるか・(株)吉仙・(株)H. T. L・(有)あさひや・総合警備保障(株) ALSOK・トップツアー(株)・NCV函館センター・函館市消防本部・(有)ビットアンドイंक 函館少年センター・函館空港ビルディング(株)・NPO 法人日本障害者・高齢者生活支援・はこだてキッズショップ(キッズタウン実行委員会)・函館短期大学・北海道教育大学 函館校・公立はこだて未来大学・函館市児童館・函館市食生活改善協議会・函館市環境部 **苫小牧市** 苫小牧市消防本部・苫小牧市立病院・苫小牧民報社・苫小牧信用金庫・苫小牧警察署・(株)ホテルニュー王子・(株)フジコーポレーション・北海道銀行・ALSOK 苫小牧支店・(株)スタジオアリス・苫小牧ケーブルテレビ・苫小牧漁業協同組合青年部・ヤマト運輸(株)千歳主管支店・(株)金剛剛・(株)ノーザンホースパーク・北海道電力(株)・(株)住まいのウチイケ・(株)コスモグラフィック・D-LEAF(ディーリーフ)・(株)開発ストア・苫小牧市民薬局(株)・苫小牧ガス(株)・苫小牧海上保安署・駒澤大学付属苫小牧高等学校・苫小牧商業高等学校・苫小牧総合経済高等学校・苫小牧南高等学校・苫小牧中央高等学校・苫小牧東高等学校・苫小牧市役所環境衛生部 **帯広市** とかちプラザ指定管理者 (株)オカモト・帯広大谷短期大学・十勝毎日新聞・OCTV(株)帯広シティーケーブル)・帯広市消防本部・自衛隊帯広地方協力本部・帯広警察署・(株)えいめい 英明塾・北海道総合警備保障(株)・北海道電力 帯広支店・北海道銀行 帯広支店・ヤマト運輸(株) 道東主管・帯広信用金庫・ジェム&ルイ・六花亭製菓(株) 鎌田きこの(株)・(株)満寿屋商店・帯広郵便局・FM-JAGA(株)エフエム帯広)・(株)藤森商会・帯広市清掃事業課

地域力の向上

札幌市立大学と、当社とを同じにする複数の企業が産・学・官・民連携でチームを結成し、第一歩となるキックオフミーティングを開催しました。

協力団体

KDDI(株)・札幌市南区市民部総務企画課・札幌市立大学・日糧製パン(株)・北海道コカ・コーラボトリング(株)・北海道総務部危機対策局危機対策課防災グループ



雪かきボランティア

北海道における雪害への支援として、2011年よりさまざまな企業と連携し、冬期に道内の市町村を訪れ、高齢者宅を中心とした雪かきボランティアに取り組んでいます。



協力団体

北洋銀行・北海道銀行・北海道テレビ放送・総合商研(株)・中大実業(株)・KDDI(株)・幸楽輸送(株)・北海道コカ・コーラボトリング(株)

ピンクリボン

当社は2010年より、北海道のピンクリボン運動を応援しています。全道に展開している「ピンクリボン自動販売機」は、売上の一部が(公財)北海道対がん協会に寄付される仕組みとなっており、北海道の女性の命を守る活動に充てられます。設置を通じてピンクリボン運動を応援する団体も年々増加しています。

設置協力先

ジブラルタ生命保険(株)・Hair Studio SCISSOR HAND'S・KDDI(株)・(株)ジェネティックラボ・(株)ジンコーポレーション・(株)つうけん道央事業部札幌事業所・(株)パソナ パソナ・札幌・(株)丸一坂本商店・そば処さんてい 柏木店・そらち乳豚・肛門外科クリニック・大鎮キムラ建設(株)・(有)大滝商店・(有)タック・コーポレーション・医療法人社団慈恩会・学校法人北光学園北海道理容美容専門学校・パフスター(株)北海道ビジネスセンター・医療法人仁心会手稲家庭医療クリニック・医療法人社団杏和会およびひろ呼吸器科内科病院・医療法人社団三草会介護老人保健施設りらく・学校法人西野学園・学校法人青葉学園・(株)ChipS・(株)あゆみ厚済・学校法人藤学園旭川藤女子高等学校・富国生命保険相互会社帯広・富士フィルムメディカル(株)・医療法人社団博愛会・(株)田中工業・(株)コスモビル・(株)セラビ・(株)岸本組・MINGLE 函館・(株)バルコススペースシステムズ・北海道地区キャノンマーケティングジャングループ・学校法人駒沢若見学園 駒沢看護保育福祉専門学校・札幌コンベンションセンター・(株)マルベリー・さわやかセンター旭川・(株)砂子組・(株)山元組・(株)信和商事・社会福祉法人萌寿会・(株)葉創・環境開発工業(株)・空知信用金庫栗山支店・空知信用金庫三笠支店・空知信用金庫美瑛支店・釧路地区農業共済組合・(株)北海道ロードサービス・財団法人北海道労働保健管理協会・(株)ホクレン商事 ホクレンショップ栗山店・札幌臨床検査センター(株)・社会医療法人母恋日鋼記念病院・社会福祉法人真宗協会帯広光南病院・社会福祉法人真宗協会帯広慈光学園・社会福祉法人真宗協会特別養護老人ホーム帯広至心寮・社会福祉法人真宗協会特別養護老人ホーム帯広慈恩の里・(株)北海道ライフサポート介護サービス大地のはな・社会保険診療報酬支払基金北海道支部・新札幌乳腺クリニック・足立産科婦人科医院・大丸藤井(株)セントラル・大正交通(有)・中村印刷(株)・日興美装工業(株)・おいわけ整骨院・(有)兼本印カネホン水産・留萌市病院事業・澤井石油商事(株)・特定非営利活動法人耳をすませば・その他設置協力企業

北海道CSR研究会

当社は北海道CSR研究会に参加し、さまざまな団体とCSR活動を通じた北海道の活性化を目指しています。



参加団体

北海道大学・北海道コカ・コーラボトリング(株)・総合商研(株)・(株)北日本広告社・サッポロビール・北海道銀行・北洋銀行・日糧製パン(株)・リコージャパン(株)・北海道日本ハムファイターズ・北海道テレビ放送・パソナ・札幌商工会議所・北海道経済連合会・三角山放送局・(公財)北海道環境財団・EPO北海道・NPO 法人ねおす・日本航空(株)・(株)Child・(株)北海道新聞社・北海道中央バス(株)・日本郵便・SMBC・(社) プロジェクトデザインセンター・KDDI(株)

※本頁に掲載の企業名・団体名は順不同とさせていただきます。



Y
動物園に「子どもたちの笑顔」を咲かせたい。

【Yell / 応援】

当社は子どもたちの笑顔のため、釧路市動物園でのキリン購入のために活動した市民団体をお手伝いしました。この取り組みは釧路市動物園で数年前よりキリンがいないこと、またキリン飼育のための設備が老朽化していることから、キリンを呼ぶための費用を募るためにスタートした活動です。

この活動が実り、2013年10月にはアミメキリン「スカイ」が釧路市動物園にやってきました。子どもたちに笑顔を届けています。



X
子どもたちが、命のつながりを感じてほしい。

【X / 未知・謎】

2010年5月、当社が旭川市と締結している「魅力的なまちづくりに関する基本協定」に基づき、学生主導による環境教育プログラム「つながる輪」の「いのち」をスタートしました。これは、旭川市旭山動物園内にある当社寄贈の休憩施設「やすらぎの森」の隣に、地元企業や学校と協働で「循環型農園」を作り、そこで地元の高校生たちが動物たちの排泄物を堆肥にして有機野菜を栽培するものです。そして、収穫された野菜を自分たちや動物が食べることで、「いのち」のつながりの不思議を学習する「体験型環境プログラム」となっています。

Z
動物園の教室で、いのちに包まれた授業を。

【Zoo / 動物園】

2011年6月、当社は札幌市との間で「環境事業に関する協定」を締結しました。「環境教育」「子どもたちの未来」「健やかな成長」をテーマとして、札幌市円山動物園を舞台に「アースデイ」や「メッセージムービーサミット」など、さまざまな環境教育イベントを通じて、訪れた方々が環境について考えることのできる機会を創出しています。

また、同園内では、休憩しながら環境の大切さを感じていただく場として「ネイチャーカフェ・アース」を運営しています。

人と地域と環境の「いい関係」を求めて。

私たちは、これからも地域社会のパートナーとして、人びとの心をひとつに結び、自然環境の大切さを訴えながら、みなさまとの多彩な活動を地域に広げていきたいと考えます。

YOSAKOIソーラン祭りを応援



当社は、初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。また、地元の札幌国際大学と協働し、「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として第3回から連続参加しており、2013年は semifinals に進出しました。

さらに、「YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶」の売上の一部を同組織委員会に寄付し、祭りを応援しています。

コカ・コーラ教育・環境財団



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、北海道栗山町とともに同町で廃校となっていた「雨煙別小学校」を、環境教育などを体験学習する宿泊型施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」へと再生して、自然体験プログラムを展開するほか、毎年コカ・コーラ環境フォーラムを開催、地域の環境教育・保全団体を表彰し、その活動を応援しています。

また、当社のセミナーや社員研修にも活用されています。

環境イベントに参加



「環境広場さつぽろ2013」をはじめ、「はこだてエコフェスタ」や円山動物園での「アースデイ」など、さまざまな環境イベントに参加し、当社の環境活動について紹介しています。

スポーツチームを応援

2007年より、当社は「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、毎年応援キャンペーンとイベントを開催しています。また、2007年より「Qoo」が球団マスコット「B・B」と一緒に道内の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」を通じて、子どもたちの食育を応援しています。

さらに、「コンサドール札幌」および「レバンガ北海道」をスポンサーとして応援し、北海道におけるプロスポーツの発展に貢献しています。



46年目のクリスマスプレゼント

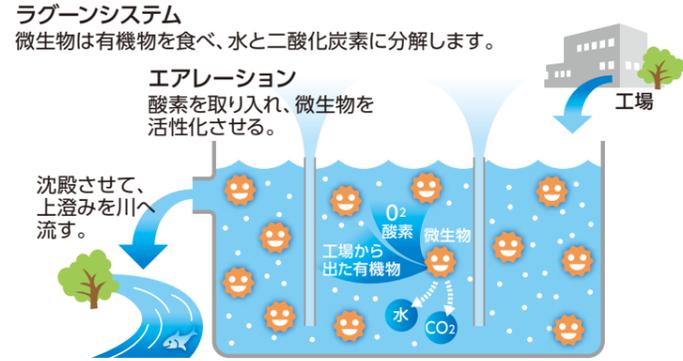


1968年より当社は毎年、道内各市町村の福祉施設にクリスマスプレゼントとして製品をお届けしています。2013年は約11万本を寄贈し、1968年からの累計で約262万6千本を達成しました。

北の未来のために、 できることを一歩ずつ。

私たちは、すべての製品とすべての活動を通じて、人びとの心と体をうるおすとともに、北海道の豊かな緑や水のせせらぎを守る、さまざまなエコ技術を導入しています。

自然にやさしい排水処理システム



札幌市との「防災に関する協力協定」締結式

札幌工場では「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した、余剰汚泥の発生量が少ない排水処理システムです。
また、2014年3月、当社を含む4団体が「札幌市との防災に関する協力協定」を締結しました。当社は災害時にラグーンの水を消火用水として供給するほか、消火要員へ飲料水も提供します。

	排水基準 許容限度 (日間平均)	2011年 最大値 (日間平均)	2012年 最大値 (日間平均)	2013年 最大値 (日間平均)
COD	160 (120)	11.4 (8.8)	14.0 (9.0)	15.2 (9.0)
BOD	160 (120)	2.5 (1.4)	5.3 (2.0)	4.1 (1.3)

※COD: 化学的酸素要求量 BOD: 生物学的酸素要求量

グリーン調達・グリーン購入

当社のユニフォームには、PET再生繊維(ポリエステル)を多く使用しており、シャツとズボンには、(財)日本環境協会認定のエコマークがついています。
空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。
また、各種文具・事務用品は、再生品など環境面に配慮された製品を購入しています。

バイオディーゼル燃料の導入



2010年「環境モデル都市」である帯広市と「協働のまちづくり」に関する基本協定を締結しています。
2011年より当社のトレーラーやトラックにバイオディーゼル燃料(BDF)の導入を順次スタートし、新しい時代のエネルギー環境を応援しています。

使用済み空容器のリサイクルを推進

大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、資源として有効活用されます。

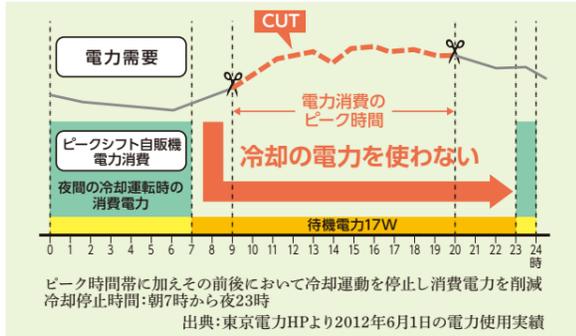
2012年度国内のリサイクル率別	アルミ缶 アルミ缶リサイクル協会	94.7%
	スチール缶 スチール缶リサイクル協会	90.8%
	PET ボトル (回収率) PET ボトルリサイクル推進協議会	85.0%
	ガラスびん (カレット使用率) ガラスびんリサイクル促進協議会	75.9%

「ピークシフト自販機」の導入



「ピークシフト自販機」とは、冷却時の電力使用を、一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕がある夜間にシフトした超省エネ型の自動販売機です。
冷却運転を停止したままで、最長16時間冷たい製品を販売でき、日中の消費電力を95%(*)削減できるようになりました。また、冷却運転時のコンプレッサーを長時間停止させることから、病院やオフィスなどの静音が求められる場所への設置にも適しています。

時間帯別電力需要の推移とピークシフト自販機の電力消費イメージ図



くかなり、冷却に使用する電力と合わせても68%(*)の消費電力の削減となることがわかりました。
なお、この自動販売機には、地球温暖化の進行により生息数の減少が心配されている「ポラーベア」(***)がデザインされています。
また、「ピークシフト自販機」の取り組みは、「平成25年度省エネ大賞 経済産業大臣賞」を受賞しました。
(*)2012年度製造同型機平均値比
(日本コカ・コーラ社調べ)
(**)収容本数の1/3を加温する場合
(日本コカ・コーラ社調べ)
(***)ポラーベアは1922年にフランスの広告に登場して以来、世界中でコカ・コーラのコミュニケーションに登場してきた地球に優しいキャラクターです。

水使用量の削減

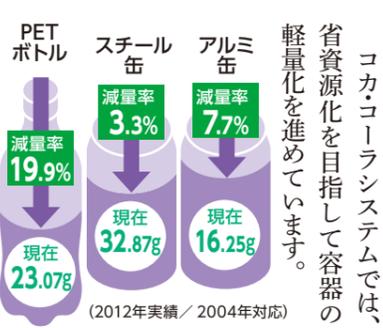
札幌工場では容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や冷却水などを循環利用し、約2、400m³/日(20時間稼働時)の節水を実現しています。

自動販売機の節電省エネ大賞受賞



東日本大震災以降、コカ・コーラシステムでは、安定した電力供給に貢献するべく、夏期と冬期の間、自動販売機の輪番停止や屋内での24時間消灯徹底などを通じ、目標の2010年度比15%削減を上回る節電を達成することができました。
この取り組みは、「平成24年度省エネ大賞省エネ事例部門省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。
今後も、継続して節電に取り組んでまいります。

容器の軽量化



コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。

札幌工場は「ゼロエミッション」

ゼロエミッションの内容		工場廃棄物排出量		
リサイクル前	リサイクル後	2011	2012	2013
コーヒーかす、茶かす	肥料	3,494	3,383	3,265
紙類	再生紙、ダンボール	186	180	182
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料	136	205	175
金属類	再生金属	105	78	62
汚泥	セメント原料、肥料	17	19	17
ガラス類	ガラスびん	7	3	3
一般廃棄物	発電、暖房燃料	2	13	12
合計		3,948	3,882	3,716

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。(単位:t)

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単焼却処理を「掃き、すべてをリサイクルする」「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年から目標を達成しています。

自然と響きあう、ものづくりを目指して。

私たちはすべての事業活動を通じ、各部門がどのくらい環境に負荷を与えているかを把握し、一環してエコロジーの視点から地域の自然環境への負担を減らしています。

環境会計

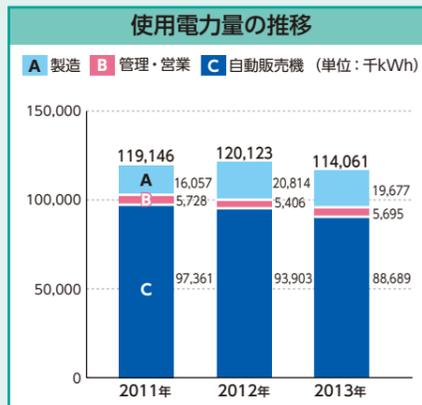
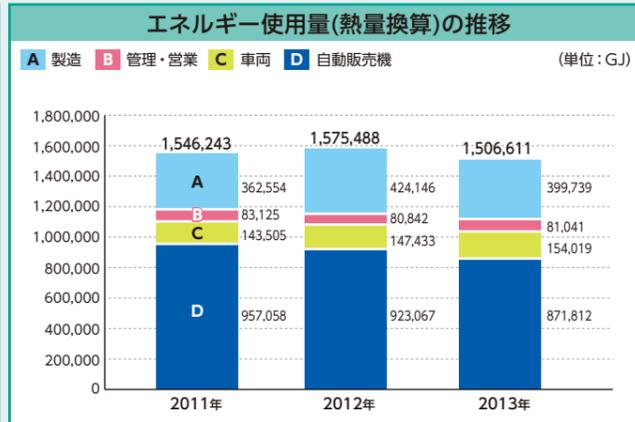
環境保全コスト

営業所倉庫の省スペース化、暖房設備の見直しや倉庫照明に一部LEDを導入するなど、環境負荷削減の投資を行いました。

環境効果

2013年も自動販売機・工場・オフィス各部門で節電対策を実施し、電力使用量の削減に努めました。自動販売機では、日中最大16時間冷却を停止し、電力を削減しながら冷たい製品を提供できる「ピークシフト自販機」の設置を2013年2月

より北海道内で積極的に進め、2013年末時点において1、621台稼働しております。工場では、複数の製造ラインを交互に稼働させ、一部設備の日中運転を停止することで、ピーク時間内の消費電力の削減に努めました。また、節水効果の高い設備の使用や改善活動により水使用量を削減しております。今後も効果的な環境改善活動に取り組み、引き続き環境負荷削減に努めます。



※四捨五入のため、合計が合わない可能性があります。

環境保全コスト

項目	主な取り組みの内容	2012年		2013年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト	計	2,960	124,690	40,454	106,269
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	0	64,685	0	54,531
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	2,960	20,880	33,965	9,898
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	8,270	0	13,835
	クリーンエネルギー車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)	0	5,488	0	1,274
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	0	23,301	6,489	25,367
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,067	0	1,364
計		0	106,399	0	95,382
2. 上・下流コスト	空容器の回収・リサイクル	0	24,573	0	22,370
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	44,378	0	36,975
	再商品化委託費 他	0	37,448	0	36,037
計		0	38,249	0	37,323
3. 管理活動コスト	環境負荷の測定	0	29,645	0	26,834
	EMSシステム構築・運用、環境コミュニケーション	0	8,605	0	10,489
計		0	17,382	0	18,056
4. 社会活動コスト	業界団体活動、環境支援活動 他	0	16,862	0	17,502
	本社構内緑化保守	0	520	0	554
合計		2,960	286,720	40,454	257,031

効果1 環境保全効果

項目	単位	2011年	2012年	2013年	
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,546,243	1,575,488	1,506,611	-4.4%
CO2排出量	t-CO2	72,039	73,511	70,427	-4.2%
NOx排出量	燃焼設備	7.1	7.6	7.2	-5.4%
	車両	63.3	64.7	67.4	4.2%
水使用量	m³	1,393,333	1,326,629	1,204,016	-9.2%

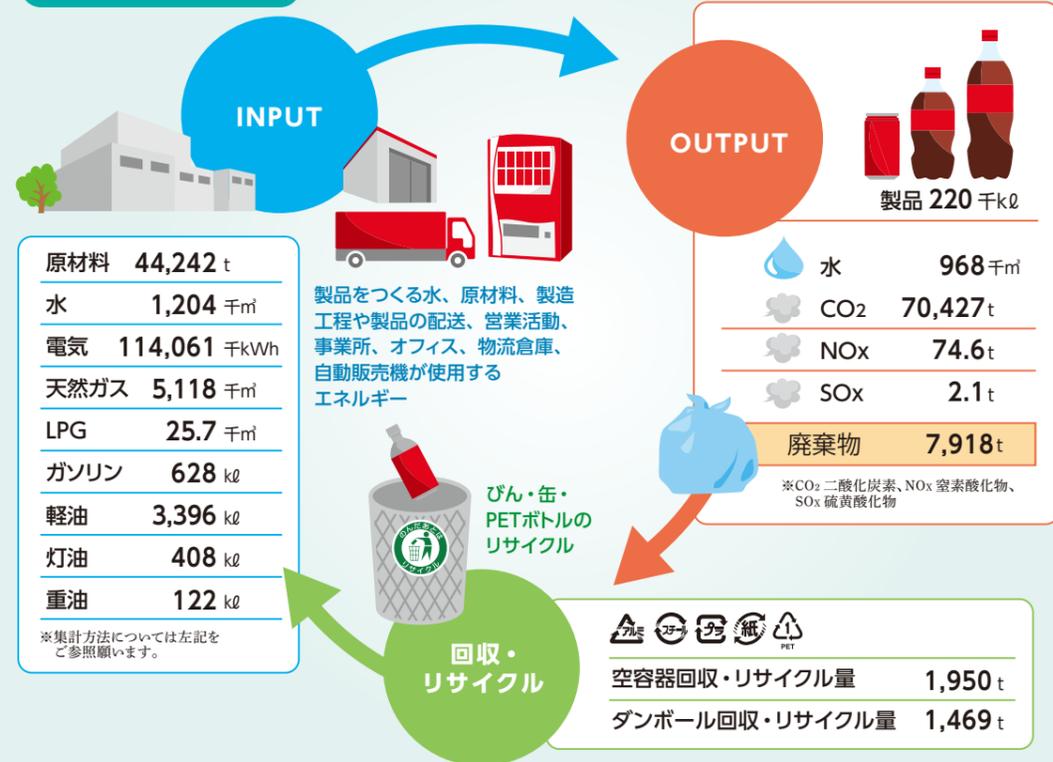
効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	2011年	2012年	2013年
リサイクルにより獲られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	43,238	37,218	49,349

<集計方法について>
 ・CO2は電力・燃料より、NOx・SOxは燃料より算出しています。(SOxは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
 ・燃料由来のCO2排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO2排出量は、電気事業連合会のCO2排出原単位(2004年度)より算出しています。
 ・NOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。

・SOx排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。

マテリアルバランス



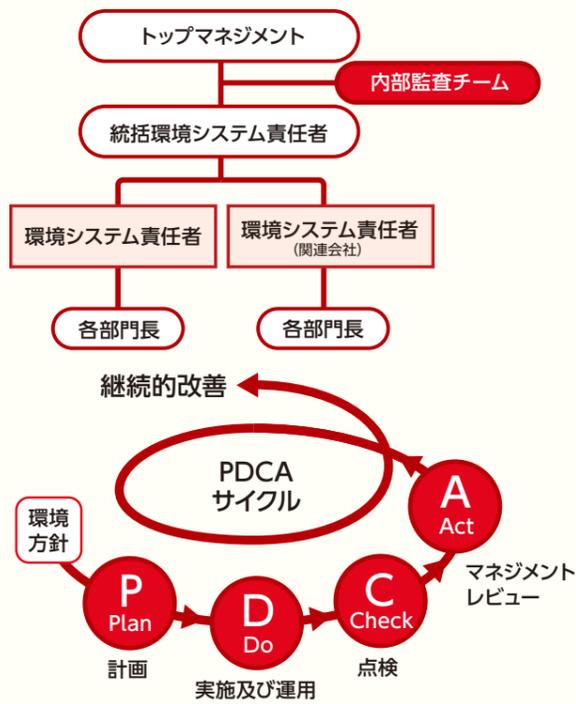
KORE

Coca-Cola (KO*) OPERATING REQUIREMENTS

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント

*「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているコカ・コーラカンパニーの略称です。

ISO14001における環境保全推進体制



2010年2月、本社敷地内に所在する、当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際標準規格である「ISO14001」を認証取得しました。組織として決定した環境方針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を把握・評価・是正し、継続的に改善していくことにより、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めていきます。また、廃棄物の削減、再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上などに積極的に取り組んでいきます。



ISO14001認証

**省エネルギー、省資源に努め
環境負荷の低減を目指して**

**マネジメントシステム
「KORE」**

コカ・コーラシステムは世界共通で「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経てお客様に製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

各項目の要求事項に対して実際のパフォーマンス状況の測定が審査登録機関によって少なくとも年1回行われています。社外第三者からの客観的評価が加わることで、コカ・コーラシステムにおけるマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

*「品質」に関してはISO9001、「食品安全」はGFSI IC、「環境」はISO14001、「労働安全衛生」はOHSAS 18001に準拠。

構造と特徴

- 4つの側面をカバー
・品質 ・食品安全 ・環境 ・労働安全衛生
- 国際規格のISO、各種法令+αの厳しい基準
- 大きく2つの階層に分かれる

環境理念

環境理念

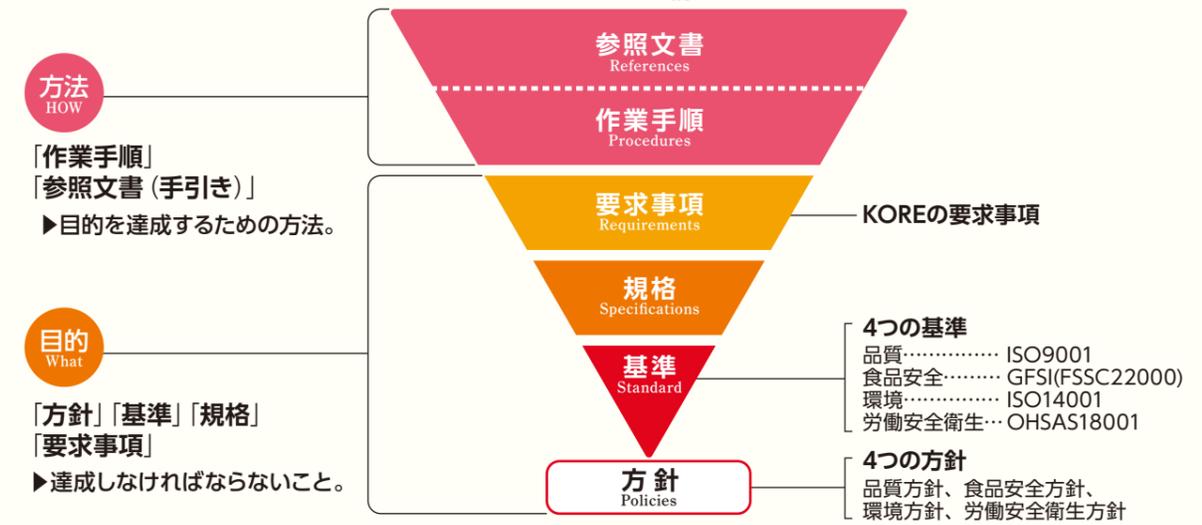
北海道コカ・コーラボトリンググループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、KORE(コカ・コーラシステム)が定める基準及びその他の要求事項を遵守します。

2011年4月26日制定

KOREの構造



いつも新しく、進化し続ける企業を目指して。

いまの「安全と安心」に、さらなる磨きをかけて。

私たちは、さらなる「新鮮さ」と「おいしさ」、そしていま以上の「安全」と「安心」を求めて、すべての製造プロセスにわたり、徹底した品質管理に努めています。

安全で安心な製品を
お客さまへ
全社でISO9001の
認証を取得

証を取得し、2009年10月には「ISO9001:2008」への移行認証を受けました。今後も、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。

新鮮な製品を
お届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適正本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。そのほか、工場倉庫出荷から自

ISO10002への
適合を宣言

私たちは、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切に行っています。お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に関する国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



ISO9001:2008認証

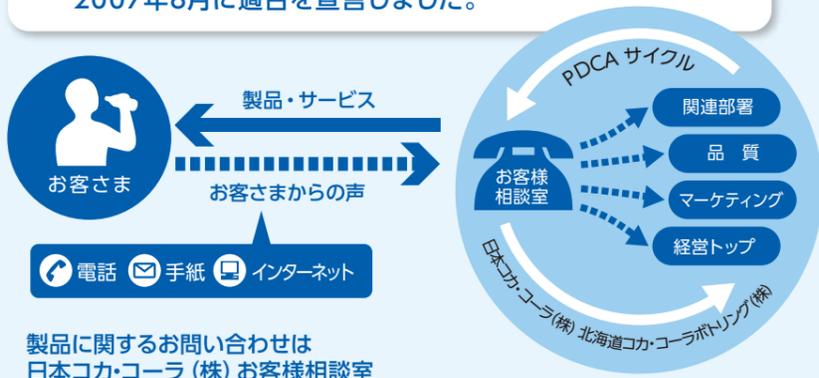
[基本理念]

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。お客さまとのコミュニケーションを大切に、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみなさまから「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

[基本方針]

- (1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に関する国際規格 [ISO10002] に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



製品に関するお問い合わせは
日本コカ・コーラ(株) お客様相談室

0120-308509

◀土日祝祭日を除く
9:30~17:00

URL <http://www.cocacola.co.jp>

札幌工場の
取り組み



コカ・コーラシステムが世界共通で導入している独自のマネジメントシステム「KORE」の4つの側面である、品質・食品安全・環境・労働安全衛生の観点から、札幌工場では製品の安全性を追求し、品質の向上を図っています。2010年には、食品安全マネジメントシステムの認証規格である「FSSC 22000」を取得しました。また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査をはじめ、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、さらに使用する水質の安全性の保証に努めています。



※「KORE」はISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。

地域社会に信頼される存在となるために。

私たちは、企業としての「公平性・公正性・透明性」を守るとともに、地域のみならずまから深く信頼され、さわやかで働きがいのある職場づくりを進めています。

企業としての社会的責任を果たす

コーポレート・ガバナンス

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。

お客さま、株主・投資家のみならず、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー（利害関係者）と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

内部統制システム

会社法の施行にともない「業務の適正を確保するための体制の基本方針」について取締役会決議し、併せて当社の内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得に資することを目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を制定しています。

また、ステークホルダーに対する適切な情報開示とグループ経営基盤強化の一環として、金融商品取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」を制定し、財務報告に係わる内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を毎期継続して行うことに努めています。

危機管理体制の強化

当社では「リスクマネジメント方針」を定め、あらゆるリスクを想定して要因の排除に努めています。天災・製品事故等が発生した際は、リスクマネジメント委員会が主導となり、部門横断的に対応する体制を構築しています。

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や

企業倫理活動への取り組み

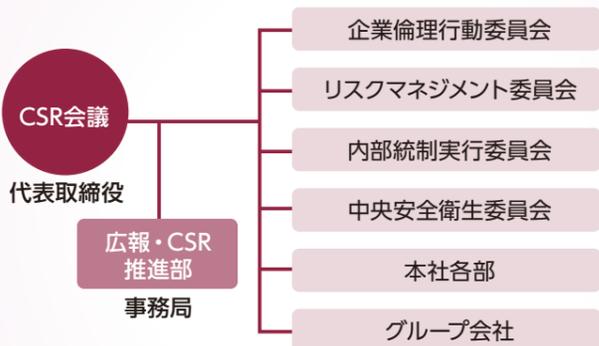
良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、従業員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として、匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンドア・ルーム」を運用しています。

個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など、個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

交通安全への取り組み

車両事故の未然防止、交通ルールマナーの遵守及び安全意識の向上を図ることを目的に、アルコール検知器やセーフティレコーダー



災害発生時の取り組み

万が一の災害発生時には、従業員の安否を素早く確認するために、携帯電話を活用した一斉配信による安否確認の取り組みを進めるとともに、災害時に不足が予想される物品を各営業所およびグループの全車両に備蓄し、従業員の安全を確保しています。

仕事と家庭の両立支援への取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業法」の定めに基づいた、育児休業制度、介護休業制度、子どもの看護休暇、介護休暇、所定労働時間を最大3時間短縮できる育児短時間勤務制度のほか、所定外労働の免除、育児・介護のための時差勤務制度を設け、子育てや介護をしながら安心して働くことができるよう支援体制を整備しています。

障がい者の雇用について

障がい者の雇用率はグループ全体で24%と法定雇用率(2.0%)に達しています。これからもハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。

人材育成制度について

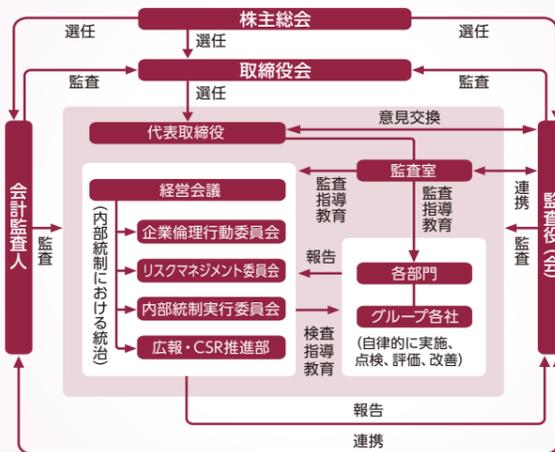
社員が働きながら幅広い知識や高度な専門能力を積極的に習得していくことを支援する「グローバル人材育成制度」を2011年に開設しました。ビジネススクールでMBAの習得を目指す「MBAコース」や、語学スクールで英語・中国語の習得を目指す「語学コース」のほか、2012年からはコカ・コーラシステムをグローバルな視点から学び、体験する「海外研修コース」を新たに開設しています。

また、このほかにも当社の従業員にはピンクリボンアドバイザーをはじめ、防災マスター、清田区検定、北海道観光マスター、プロジェクトWET（水に関する環境教育プログラム）エデュケーターなど、多様な資格を有している者がいます。

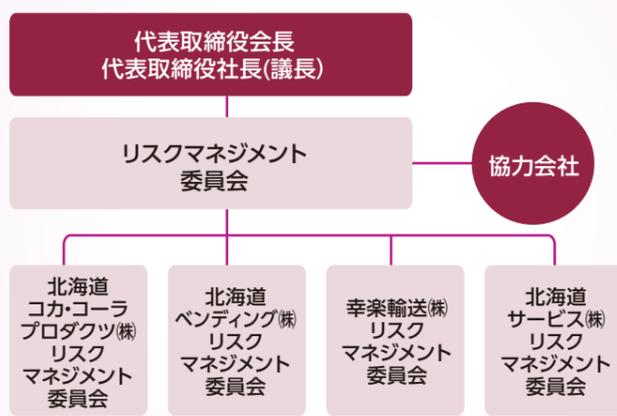


さっぽろ雪まつり会場で外国人観光客へアンケート調査を行う語学コース対象者

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



北海道コカ・コーラボトリング(株)危機管理体制



北海道で生まれ、育った 道産子企業として。

だからからも親しまれ、信頼され続ける企業市民として、
さまざまな事業活動を展開しながら、
良きモノづくりを通じて地域社会に笑顔を広げていくこと、
それが私たちの仕事です。

経営理念 私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献します。

経営指針

- 私たちは、
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
 2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
 3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

中期経営計画

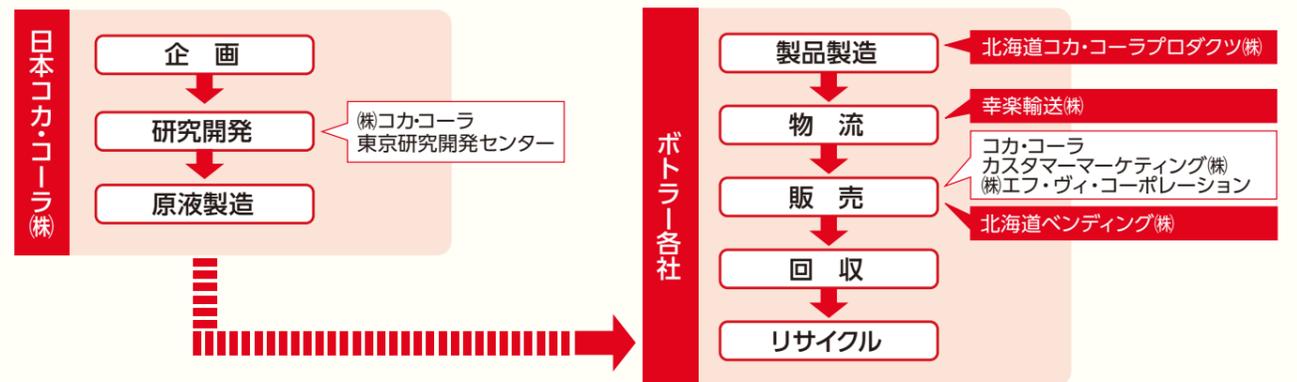
コカ・コーラのブランド力と
道産子企業の地域密着力で北海道に貢献する。

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリンググループのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に、広く全道各地へ拠点を有しています。
この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



コカ・コーラシステム概要



笑顔があります。感動があります。

市場にたえず新鮮で、革新的な息吹を送り込む「札幌工場」。
私たちは、みなさまにこの「さわやかな工場」を
もっと身近に感じていただきたく、工場見学ツアーを実施しています。



札幌工場へようこそ！

当社では、創業以来「工場見学」を実施しています。工場見学では、徹底した衛生管理のもとで製造されるコカ・コーラ製品の製造工程のほか、昔懐かしい自動販売機やポスター、環境・地域との取り組みなどを、案内員がわかりやすく紹介しています。

2013年も、たくさんのお客さまにお越しいただくことができました。近年では、社会見学・修学旅行に加え、大人のお客さまにも多くご来場いただいていることから、年代に応じた説明内容でみなさまにご満足いただけるプログラムとなっています。

北海道コカ・コーラボトリングCSRレポート
第三者意見



宮部 潤一郎
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院/国際後方メディア・観光学院
国際広報論講座 特任教授
国際基督教大学行政学大学院修士課程修了。2009年より現職。榊野村総合研究所にて34年、公共セクターから民間企業、国内、国外と幅広くリサーチ・コンサルティング業務に従事。現在は広報組織・人材論を中心にコミュニケーションの視点から組織の戦略行動を考えている。

北海道コカ・コーラボトリングのCSRレポートを一読して、この報告書が想定する読み手は誰だろうかと考えた。有価証券報告書であればまずは投資家、アナリストと読み手が明確で、その読み手にとって必要十分な情報が開示されていることが求められる。CSR報告書は、そのような読み手の特定が難しい。特に、北海道コカ・コーラボトリングのように、“北海道とともに”を標榜し、様々な活動を通して実践している企業においては、“あらゆるステークホルダーが読者”ということにならうか。これは言うのは簡単だが、実際にそれに応えることは難しい。そのことを承知の上で、敢えて2点ほど指摘したい。

「北の大地とともに」、「チーム北海道」がレポートを貫くテーマとなっている。協創、協働が強く意識されていることは一読、明確に伝わってくる。様々な事業分野の企業や自治体と協働で、道内各地で、ということはこのレポートが北海道コカ・コーラボトリングの活動報告の枠を超えていることを意味する。1社での活動には限界がある、協働でなければならぬと見定めてのことと思うが、協働の活動報告と北海道コカ・コーラボトリングの活動報告との間のバランスをどのように取るのか、そこでの活動をどのように表現するのが難しい。様々な実践を積み重ねていく中で良いバランスを見出していきたいと思います。

別の観点からの協働は、このレポートで述べられている様々な活動が誰によって行われているかに関わるものである。CSR活動は担当セクションがやることと社内で認識されている間は、本当の活動にはなっていないと言うべきであろう。自慢話レポートにならないようにとの配慮は十分に理解できるが、そしてそれは大切なことであるが、冒頭の「ごあいさつ」にある“社員一人ひとり”の活動をもっと見せていただきかったと思う。誌面に登場していない多くの社員の協働があってこそそのCSR活動であろうと考えるからである。

ところで表紙裏の道内179市町村の観光ポスターは圧巻である。このページの後ろにも多くの社員の方々の努力があったのではなかろうか。

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 矢吹 健次 代表取締役社長 佐々木 康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	538名(グループ979名) (2014年3月末日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(21)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ペンディング株式会社
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社
コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、
一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社
一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、
書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および損益の状況の推移

(単位:百万円)

区分	第50期 (2011年)	第51期 (2012年)	第52期 (2013年)
売上高	57,072	56,276	54,808
経常利益	1,503	629	789
当期純利益	2,651	722	362

工場見学のご案内

「さわやかさとうるおい」が生まれる現場に
足を運んでみませんか？



工場見学の主な内容

- 概要説明(5分)
- 製造工程・立体自動倉庫見学(35分)
工場設備点検などにより、稼働していない場合は、映像でのご案内になります。
- ビデオ上映・試飲(20分)

見学できる日時

毎週月曜～金曜日(祝祭日も可)
午前10:00～12:00、午後1:30～4:30
※祝祭日は一部休みの日もあります。
※7～9月は土曜日も見学いただけます。

所要時間

約60分
※ご要望に応じて調整することができます。

見学場所

札幌工場
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

お客さまの声にお応えし、7～9月は土曜日の見学を実施しています。

工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。直接電話または申し込み専用WEBサイトでご予約ください。

工場見学
お申し込み・
お問い合わせ

☎011-888-2100

<https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/factory/visit.html>

編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2014」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー (利害関係者) のみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

[対象期間]

2013年1月1日～2013年12月31日。実績データは2013年、活動内容の一部は2014年も含みます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています (「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]

ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csreport.html>



CSRレポート2011



CSRレポート2012



CSRレポート2013

 **北海道コカ・コーラボトリング株式会社**
(コカ・コーラ指定会社)
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 (広報・CSR推進部)
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、
い・ろ・は・す、COCA-COLA Zero、コカ・コーラゼロ、Fanta、ファンタ、
MinuteMaid、ミニッツメイドは The Coca-Cola Companyの商標です。

2014年5月発行/次回は2015年4月の発行予定です。



「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2014」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

Q1 このレポートについての評価をお聞かせください。

- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

Q2 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> [巻頭企画]
WE ARE THE HOKKAIDO
チーム北海道であることを願って
北海道179市町村、未来へつながる | <input type="checkbox"/> 地域コミュニケーション |
| <input type="checkbox"/> [特集]
「北海道の元気」を応援するキーワードAtoZ | <input type="checkbox"/> 環境負荷低減 |
| <input type="checkbox"/> 協創の協働体へ、新たなステップ | <input type="checkbox"/> 環境会計 |
| <input type="checkbox"/> 地域の活性化と防災に向けて | <input type="checkbox"/> マネジメントシステム |
| <input type="checkbox"/> 地域の美化と防犯を支えて | <input type="checkbox"/> 品質管理 |
| <input type="checkbox"/> 水資源、そして森を大切に | <input type="checkbox"/> 企業の社会的責任 |
| <input type="checkbox"/> 地域に子どもたちの笑顔を | <input type="checkbox"/> コカ・コーラシステム概要 |
| <input type="checkbox"/> We are ザ・チーム北海道 | <input type="checkbox"/> 工場見学・プロフィール |
| | <input type="checkbox"/> 第三者意見 |

Q3 どのようなお立場でお読みになられましたか？

- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

- | | | | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 性別/ <input type="checkbox"/> 男性 | 年齢/ <input type="checkbox"/> 16歳未満 | <input type="checkbox"/> 16～20歳 | <input type="checkbox"/> 21～25歳 | <input type="checkbox"/> 26～30歳 | <input type="checkbox"/> 31～40歳 |
| <input type="checkbox"/> 女性 | <input type="checkbox"/> 41～50歳 | <input type="checkbox"/> 51～60歳 | <input type="checkbox"/> 61～70歳 | <input type="checkbox"/> 71歳以上 | |

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL (011) 888-2135



011-884-3832